

2014年1月 吉日

報道関係者各位
《プレスリリース》

筑波大学 芸術系 創造的復興プロジェクト
代表 五十殿 利治

ドキュメンタリー映画『いわきノート』完成披露上映会開催について

筑波大学創造的復興プロジェクトでは2012年12月より、映画制作と配給を手がける有限会社UPLINK（本社東京、浅井隆代表）と共同で、ドキュメンタリー映画を制作するプログラム：FUKUSHIMA VOICEを進めて参りました。このたび映画『いわきノート』が完成したことを記念して、いわき市・つくば市・東京都の3会場で披露上映会を開催いたします。

『いわきノート』では、東日本大震災から2年を経た福島県いわき市で暮らす人々の言葉を通じて、被災地の未来への思いを描きます。取材は全て筑波大学生11名によっておこなわれ、専門家の助力を得て1本の映画に編纂されました。被災地の記録として、国内はもとより海外へも発信して参りたいと考えております。

ご一読頂き、ぜひとも事前の告知及び当日の取材・報道をお願い申し上げます。

記

1. いわき会場

2月16日 14:00 <整理券配布12:00より>

いわき芸術文化交流館アリオス 小劇場（福島県いわき市平三崎1-6）

2. つくば会場

2月21日 15:00 <整理券配布13:00より>

筑波大学 大学会館ホール（茨城県つくば市天王台1-1）

3. 東京会場

3月2日 ①16:00 ②19:00 <各回整理券配布10:45より>

アップリンク・ファクトリー（東京都渋谷区宇田川町37-18）

◎ 各会場ともに入場無料、先着順定員制。（各会場にて整理券を配布）

◎ 上映前にはスタッフからの挨拶、上映後には出演者を交えてのトーク（30分）あり。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

筑波大学 芸術系創造的復興プロジェクト室（担当：飯田、橋本）

ホームページ：www.geijutsu.tsukuba.ac.jp/~cr

Tel：029-853-2813 Mail：cr@geijutsu.tsukuba.ac.jp

<創造的復興プロジェクト概要>

筑波大学芸術系が中心となって創造的復興をめざすプロジェクト。筑波大学の多領域にわたる専門分野と芸術とが協働し、学生とともに被災地の多様なニーズに応えることを目的とし、創造的復興-Creative Reconstruction-を目指します。

『いわきノート』 内容紹介

紡がれる声で見えてくる被災地の現在

福島県の南部に位置し、福島第一原発から最寄りの都市であるいわき市。かつて炭鉱の賑わいや、映画フラガールで知られる街です。東日本大震災では446名が犠牲となり、現在も福島第一原発の周辺町村から2万人以上の避難を受け入れています。

環境変化のストレスや風評被害が住民たちにのしかかる状況の中、「未来会議 in いわき」が開催されています。それは市内外から職業も年齢も考えも異なる人々が集い、自らの経験や思いを語る場です。カメラは偶然に出会った人々による対話が無数に発生し、過去から現在そして未来に向けて対話が発展する様子を追います。

会議に立ち会ったあとで、カメラは参加者ひとりひとりの日常をも見つめます。農業や漁業に携わる人、子育て中の母親たち、教師と高校生、僧侶やサーファーなど。そして今なお仮設住宅で生活する人たち。映画は、市井の人びとが語る言葉をひとつずつ照らし、一人ひとりの物語を丹念に描いてゆきます。

86分 HD ©筑波大学 2014

FUKUSHIMA VOICE について

筑波大学創造的復興プロジェクトと映画配給会社 UPLINK との合同プログラム。筑波大学からは専攻がまちまちな11名の有志学生が参加、映画製作の専門家の大澤一生（『ドキュメンタリー映画100万回生きた猫』プロデューサー）、島田隆一（『ドコニモイケナイ』監督）を迎えた。

震災の記憶が風化しゆく現状を感じていたという彼らの合い言葉は“福島の人たちの声を世界に届ける”。

2013年3月からの現地リサーチ、撮影・インタビュー実習、取材対象者への交渉を経て、同年9月にいわき市にて取材合宿を実施した。未知の街で丹念に取材した結果、撮影素材はのべ90時間にも及んだ。本編では人々の言葉と市内の情景とが、人々の声を紡ぐ映像として構成されている。

2014年春からは、各地で自主上映会の開催と国際映画祭への参加、ホームページを開設してのweb展開を予定している。